

# 市長が行く

## コロナ第7波 後手に回った対策

No.141

茂原市長

田中豊彦



全国の1日のコロナ新規感染者数は、7月末には23万人に達し、あつという間に今春の第6波のピーク時の2倍を超えました。それでも政府の打った手は、外出自粛要請はせず、また野外出事等の催し物に関しての制限を緩めたりもして、基本的な対策の徹底の呼び掛けにとどまっています。従って、急速な感染拡大が起こり、医療従事者やインフラ関連従事者への感染へとつながり、社会活動の停滞をも引き起こしています。この長生地域でも、公立長生病院に千葉市、東金市、大網白里市、勝浦市などからも発熱外来の患者さんが押し寄せ、対応に限せざるを得ない状況が続いています。また、消防職員の庁舎で感染が拡大し、状況を見て体制の組み直しをしながらの活動を余儀なくされています。

本来であれば、第6波までのような対策、危険度が2番目に高い「2類相当」の措置

が取られなければならぬ感染症なのに、今回の政府が取った措置は、日々の重症者数が第6波よりかなり少ないことから、過去に取ってきた緊急事態宣言やまん延防止等重点措置とは異なり、都道府県任せの「B.A.5対策強化宣言」なるものを作り、政府とは直接関わりを持たないようにしたところに大きなミスがあったように思います。このことにより、経済活動との両立を図りながらコロナとの共存を模索していく方向に国全体で動き始めたのですが、経済活動をこれ以上止めたくないという意図と裏腹に、結果的に、末端の行政組織である市町村が振り回され、医療ひっ迫が起こり、地域の経済にも影響が出てきています。

本来敵と戦うには、敵についてよく知らなければならぬのですが、今回のコロナという敵は、いまだにその本性がよくつかめていません。かかったとしても軽症で済むか

ら心配なのか、それとも重症化するリスクを常に恐れなくてはいけないのか、後遺症は重いのか、どのくらいの人か、それによって苦しんでいるのか、流言飛語でなく、信用できるデータがまだないということも正しい対策を打つことのできない一因でしょう。

このネット社会において、さまざまな情報が飛び交う中、何を信じてよいのか分からぬのが現状です。悲しいことに政府が言うことにも、全幅の信頼を置くことができません。何か隠しているのではないかと疑う気持ちはどうしても出てきてしまうのはなぜでしょうか。

一方で、安心できる国産のワクチンや、治療薬の開発を、心待ちにしている人は多いことと思います。このコロナの終息のためには、もうそれしかないのでは私は思っています。